

産経新聞 2005年11月21日付 インタビュー提言記事

頼んませ 新市長さん

市政改革へ「市民の手に政策を」

職員厚遇や不祥事などが表面化したことで、市民が市政に関心を持つようになったと感じる。それは主催した立候補予定者の公開討論会に参加した市民の反応からも感じ取れた。問題は、選挙後に市民の声や熱意をどう市政に反映するかだ。

市の改革マニフェストはよくできてはいるが、行政組織内の改革を主とした内容であり、市民との接点が少ない。行政内改革と市民主導のまちづくりをセットで進めるべきだ。

私は「市民の手に政策を」と提言し続けている。市民が直接、政策にタッチする仕組みを作らないと、市民が求める市政にはならず、チェック機能も働かない。誰が市長になるのかということ以上に、市民がどう市政を引っ張っていくのかという考え方が大事。大阪市は今回、市民主権型の政策形成システムを作るチャンスなのだが、それを生かすも殺すも市民と行政側の姿勢次第だ。

(NPO法人市民活動情報センター代表理事、今瀬政司さん)